

さくらに木

(題名は校歌より)

さいたま市立宮前小学校

学校教育目標

- ・本気で勉強しよう
- ・心をみがき、体をきたえよう
- ・人のためになろう

在籍児童数668名 学級数25

振り返りをこれからに生かす

校長 高田 信太郎

梅の花が見ごろを迎えています。今は花見と言えば桜ですが、奈良時代は梅の花見を楽しんでいたそうです。平安時代頃から桜が多く植えられ、江戸時代からは、今のように桜の花見が主流になってきたようです。

今年度もあと1か月となりました。今週から、授業参観が行われています。この1年間の子どもたちの成長した姿をご覧いただいていることと存じます。この時期は、教室を回ってみると、振り返る活動が見られます。2月の学校の様子を振り返ってみます。

昨日は、6年生を送る会がありました。コロナ禍が明けて、久しぶりの全校児童が体育館に集まったの会となりました。他の学年の発表を直接見合うことができ、1年生から6年生が一緒に参加するのは、小学校ならではのよさだと改めて感じました。

また、21日には、クラブ見学がありました。3年生が来年度どのクラブに入るのか考えながら、各クラブを見学していました。さらに、16日には、6年生対5年生のバスケットボール親善球技会が行なわれました。6年生が圧倒的な強さを見せつける形となりましたが、5年生は、6年生との関わりの中でいろいろなことを学び、最高学年に向けての意識が高まってきているようです。

卒業まで、あと1か月となった6年生は、クラスごとにテーブルマナー給食がありました。ハンバーグやスープ、デザートなどの特別メニューをナイフとフォークを使って食べていました。こうした場面も思い出の1つとなるでしょう。そして、1年生は、宮前小へ見学に来た園児にペンダントをあげ、授業の様子も見てもらいました。園児たちも小学校へ入学することが楽しみになったことと思います。このように、どの学年も、1年間の成長を感じられるとともに、次の学年へ向けての意識が高まっているように感じられます。

「振り返ってみましょう」と言われると「～ができなかった」など、反省をしなくてはならないと感じている人もいるかと思います。もちろん、反省することも必要ですが、もっと大切なことは、できたことを実感し、次へつなげていくことです。日本人は自己肯定感が他の国と比べると低いと言われています。内閣府の調査によると、「自分自身に満足している」という項目について、日本は、調査した欧米諸国と比べ、30ポイント以上も低いそうです。日本人なので謙虚さもあるとは思いますが、できたことを自分で褒めることをもっとしてもよいと考えます。そして、自己肯定感を高めるためには、積極的に人との関わりをもつことや失敗を恐れず行動していくことが大切です。

ご家庭でも、お子さんのこの1年間のがんばりに目を向け賞賛し、新学年もがんばろうという気持ちをもてるように励ましの言葉をかけてあげてください。今年度も、保護者、地域の皆様には、御理解・御協力をいただきありがとうございました。